

【学校教育目標】 豊かな感性を持ち、主体的に学び、心身ともにたくましく生きる児童の育成



第五小だより

自分で・自分から、誰かのため・何かのため、それが未来のため
60周年 共に ウマくい 大作戦

令和8年8・9月号

朝霞市立朝霞第五小学校

朝霞市泉水3-16-1

TEL048-462-0455

誰かのため・何かのための学びに

校長 田邊 雅也

地震・豪雨も何かのための学びに

8月23日午前2:00、朝霞市では震度4の大きな地震がありました。震度5弱を記録した近隣市は、関係者が学校に参集しました。もし、教育活動中に震度5弱の地震が発生すれば、保護者は児童を引き取りに来校することになります。この夏は、熊本の地震、千葉・石川・富山の集中豪雨がありました。が、災害は、朝霞市でも起こる身近な問題となっています。1学期は、朝霞市の危機管理室、地域担当班、朝霞市地域防災アドバイザーの皆様のご協力をいただき、4年児童は、保護者・地域の方と避難所開設体験をしたばかりです。こうした身近になっている災害が、2学期の4年生の探究課題となっています。自分のためはもちろん、誰かのため、何かのためにつながる、真剣な学びになることを願っています。

よさこいの探究は、朝霞市民のために

令和7・8年度、3年生が、朝霞市の魅力のひとつである彩夏祭での「よさこい」を探究しています。1学期は、朝霞市役所地域づくり支援課、本校を拠点に活動している「舞い踊れ、けやきっ子」の皆さんのご協力をいただきながら、探究的な学びのきっかけをしてきました。8月1日（土）、「舞い踊れ、けやきっ子」の子供たちが、彩夏祭に参加しました。本校の教員3人も参加させていただき、朝霞市民と一体となった、朝霞の夏を感じることができました。10月の60周年記念の運動会では、今年も、3年生がよさこいを披露する予定です。その後、よさこいを深掘りして、さらに探究する学級もあるようなので、それも楽しみです。どの学級も、朝霞市民のためになる学びにつながれば素晴らしいと思います。

ファームでの学びは、自分や地域のために

昨年度末より、土から改良した五小ファームで育てたおぼけカボチャ（アトランティック・ジャイアント）は、昨年度より生長が早く、夏休みの収穫となりました。あいにく、子供たちが立ち会えませんでした。大きさは昨年度の2倍以上です。いずれ、ひまわり学級の学びの中で、子供たちから詳細が出されるでしょう。

またファームでは、夏野菜も育てていました。ひまわり学級では、昨年度から五小ファームが学びの中心となり、地域と「学社共創」で授業づくりを試行錯誤しています。子供たちは、五小ファームでの活動が大好きで、この活動に誇りを持っています。こうした体験と学びを関連させることで、子供たちの学ぶ意欲が上がっています。協力してくださる地域のためにも、自分の力を高めてくれたらうれしいです。

「比べない」は、学校や社会の幸せの実現のために

7月22日、朝霞市役所にて、「いじめ撲滅サミット2026」が開催されました。五小からは、6年生2名が代表で参加しました。他校の児童と膝を突き合わせて、いじめ撲滅のスローガンについて話し合い、「いじめをしない、見逃さない、人と比べない」と決めました。印象に残ったのは、「人と比べない」の言葉です。誰かと自分を比べたときの劣等感や嫉妬が、いじめにつながるのではないかと、という意見から採用されたそうです。何かの尺度だけで、優劣を決めるのではなく、それぞれの個性として受け入れ、お互いを尊重し、多様性を認め合おう、と子供たちだけでまとめたことに感心します。これも、学校や社会の幸せを実現させる考え方なのだと思います。子供たちのこうした話し合いに、学ぶべきところが多いです。

五小の学社共創

7月21日、22日、5年生は林間学校として、国立赤城青少年交流の家（群馬県富士見町）に行きました。子供たちは、「一致団結！ルールを守って仲間と楽しく最高の思い出をつくろう!!」というミッションを果たすべく、「自分で・自分から、誰かのため・何かのため」に協働し、学年の未来を拓きました。

五小では、目指す学校像「自分で・自分から、誰かのため・何かのため、それが未来のため」の実現のため、「学社共創」しながら、「60周年共にウマくい大作戦」を展開しています。この夏、教職員は、教材を研究したり、地域の方と打ち合わせたりして、これからの探究的な学びを構想してきました。2学期も教育改革の試行錯誤は続きますが、保護者・地域の皆様、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

※五小の学社共創（がくしゃきょうそう）

…学校教育（学校）と社会教育（地域）が、課題や目標を共有し、互いにベクトルを合わせて教育活動を共に創ります。2学期からは教科を横断し、カリキュラムを柔軟にしながら、探究的な学びを展開していきます。保護者・地域と共に、「60周年共にウマくい大作戦」の中で、「自分で・自分から、誰かのため・何かのため、それが未来のため」につながる学びを目指します。